

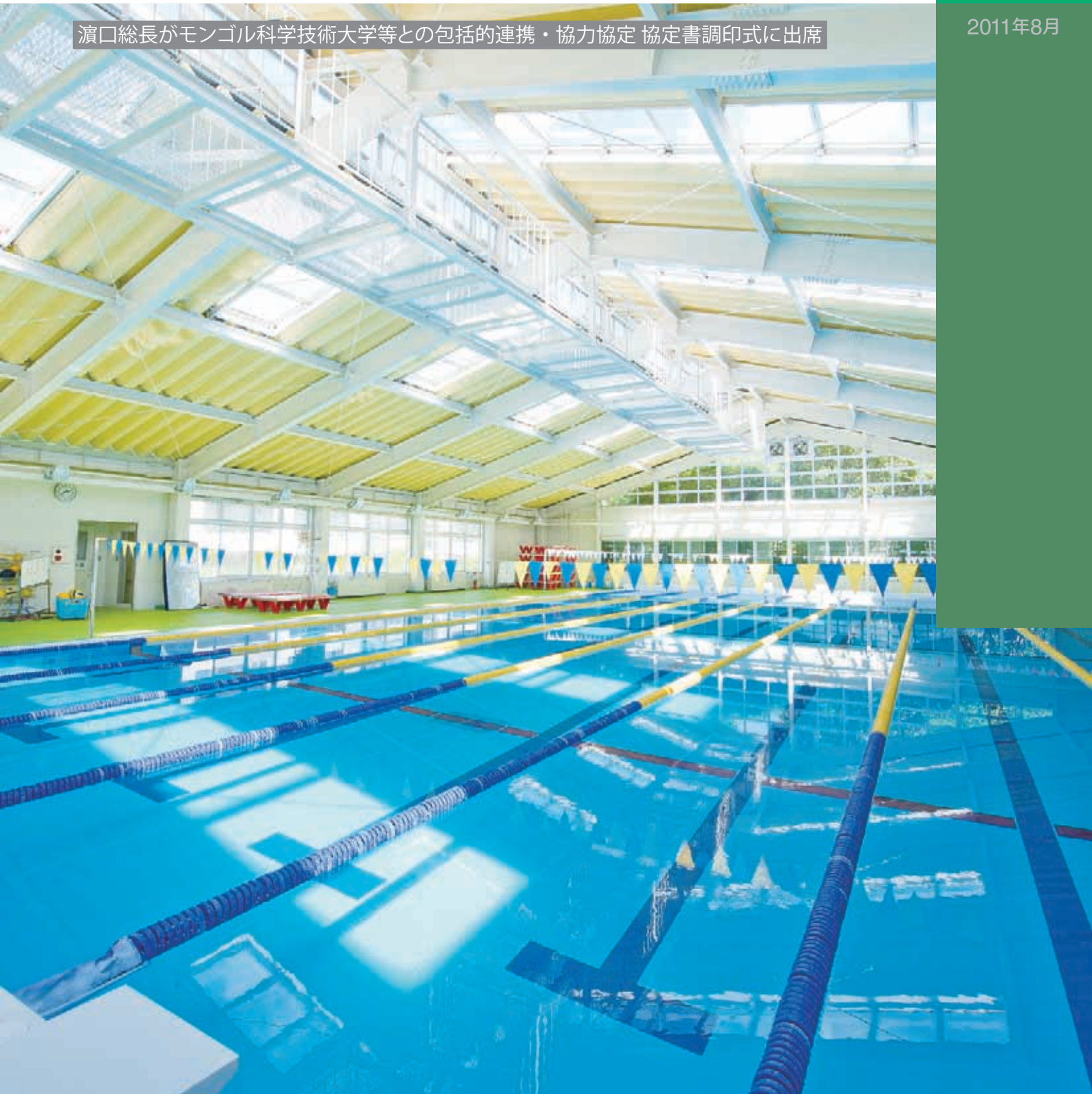
# 名大トピックス

NAGOYA UNIVERSITY TOPICS

No.219

2011年8月

濱口総長がモンゴル科学技術大学等との包括的連携・協力協定 協定書調印式に出席



<http://www.nagoya-u.ac.jp/>

## 目次

### ●ニュース

濱口総長がモンゴル科学技術大学等との包括的連携・協力協定 協定書調印式に出席	3
第33回経営協議会を開催	4
濱口総長が全学教養科目「名大の歴史をたどる」で講義	4
名古屋大学職場説明会を開催	5
シュライヒャー OECD 事務総長教育政策特別顧問講演会を開催	5
全学同窓会台湾支部設立総会及び式典を開催	6
全学同窓会韓国支部が本学へ寄附	6
藤井理事が名古屋市長に緊急提言書を手渡す	7
第71回防災アカデミーを開催	7

### ●知の先端

植物と病原菌の攻防	8
—植物免疫シグナルネットワークの解明をめざして— 吉岡 博文（大学院生命農学研究科准教授）	

### ●学生の元気

第65回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会	10
第60回東海地区国立大学体育大会 —男子3位、女子5位—	11

### ●部局ニュース

グリーンモビリティ連携研究センター設立・グリーンビークル材料研究施設 開設記念式典・講演会を挙	12
行 公開レクチャーを開催	13
平成23年度工学部懇話会を開催	13
名古屋入国管理局長講演会を開催	14
第3回アジア開発銀行・日本奨学金制度奨学生研究フォーラムを開催	14
次世代自動車地域産学官フォーラム・技術開発セミナーを開催	15
公開シンポジウム「エコトピア科学—持続可能社会の実現に向けた戦略—」を 開催	15
「外交講座」特別講義を開催	16
ICCAE 第3回オープンセミナーを開催	16
第40回博物館コンサートを開催	17
大学連携キャンパス講座を開催	17
●名大を表敬訪問された方々	18
●新たに締結した学術交流協定	18
●構成員を対象とした研修	19
●本学関係の新聞記事掲載一覧 平成23年6月16日～7月15日	20

### ●INFORMATION

第7回名古屋大学ホームカミングデイ（創基140周年）	23
地域と大学で考える 未来を耕す「人・緑・食」を10月15日（土）に開催	
概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2011」を刊行	24
●イベントカレンダー	24
●ちょっと名大史	
第8代総長 飯島宗一 <small>いじまそういち</small> —名大をひきいた人びと⑬—	28

# 濱口総長がモンゴル科学技術大学等との 包括的連携・協力協定 協定書調印式に出席



- 1 ランドクルーザー贈呈式での記念撮影
- 2 修了証書を手渡す総長（左）
- 3 調印式の様子



濱口総長が、6月14日(火)から18日(土)の間、モンゴルを訪問し、「モンゴル国における地質構造・鉱床成因・自然環境解析、人材育成及び地質情報の基盤整備のための日本・モンゴル間の包括的な連携・協力に関する協力協定」の協定書調印式に出席しました。今回の協定は、経済産業省資源エネルギー庁からの支援を受け、政府・大学・産業界が連携して、人材育成をはじめとする新たな取り組みを開始するため、本学とモンゴル科学技術大学、富山大学、株式会社ジオ・コミュニケーションズの4者間で締結したものです。モンゴル科学技術大学とは、2003年以降、本学博物館、大学院環境学研究科が地質調査や人材育成など多岐にわたる分野での連携を行ってきており、2009年には大学間学術交流協定を締結するとともに、同大学内に名古屋大学フィールドリサーチセンターを開所しています。

16日(木)、駐モンゴル日本国大使公邸を会場に行われた調印式には、

城所卓雄駐モンゴル日本国特命全権大使、チュルテム・ウラン モンゴル国国会議員をはじめ、日本・モンゴル両国の政府・学術関係機関の関係者が出席し、濱口総長、遠藤俊郎富山大学長、ダムディンスレン・バヤンドゥーレンモンゴル科学技術大学長、柳井修一(株)ジオ・コミュニケーションズ社長が協定書に署名しました。

協定書締結後には、機動的な調査を実施する上で大きな戦力となる四輪駆動車(ランドクルーザー)1台の贈呈に関する覚書が、吉田博物館長とオユン・テムチグ モンゴル科学技術大学鉱物学部長との間で取り交わされました。

本協定の締結及びランドクルーザーの贈呈により、本学とモンゴル科学技術大学を核とした日本・モンゴルの交流促進及びモンゴルの地質調査・鉱物資源開発やそれに伴う環境問題への取り組みが期待されています。

午後には、名古屋大学日本法教育研究センター修了式が行われ、濱口総長

が修了生に対し修了証書の授与を行いました。同センターは、2006年にモンゴル国立大学法学部内に開所され、今回は、第1期生7名が5年間の課程を修了しました。修了式には、修了生及びその家族、在校生のほか、濱口総長、サンベジ・トゥムルオチル モンゴル国立大学長、ソドヴスレン・ナランゲール同大学法学部長、城所駐モンゴル日本国特命全権大使、岩井敦武国際協力機構(JICA)モンゴル事務所次長等が出席し、在校生代表の送辞及び卒業生代表の答辞では、在学中の苦勞及び仲間同士での励まし合いや、充実した学生生活について、日本語で述べられました。

そのほか、総長は、モンゴル滞在中、モンゴル国立大学、モンゴル保健科学大学、JICA、新モンゴル高校等を訪問し、本学との交流促進についての意見交換や、名古屋大学全学同窓会モンゴル支部会員との交流を行いました。

## 第33回経営協議会を開催

第33回経営協議会が、6月20日(月)、ES総合館において開催されました。

会議では、濱口総長からあいさつがあった後、橋本孝之日本アイ・ビー・エム株式会社代表取締役社長から同会委員就任のあいさつがあり、引き続き、平成22年度実績報告書、平成22年度決算、運営費交付金に係る業務達成基準、



会議の様子

平成24年度概算要求、国家公務員の給与削減に伴う対応について各担当理事、副総長からそれぞれ説明が行われ、審議の結果、了承されました。

次いで、第一期中期目標期間に係る業務の実績に関する評価結果、東海地区国立大学法人の事務連携、大学院の収容定員の充足率、学部・大学院の進路状況、平成23年度学部・大学院入学試験状況、英語新カリキュラムの実施状況、平成23年度国際プログラム群学部外国人留学生・帰国子女等入学試験出願者及び1次合格者数、外部資金の受入状況等、名古屋大学基金の寄附状況、平成22年度施設整備状況について報告が行われました。

外部委員の方々からは、大学の事業の実績、財務関係、国際化に伴う外国人留学生の受け入れ等に関して貴重な意見が寄せられました。

なお、会議後には、エコトピア科学研究所超高压電子顕微鏡施設及びES総合館2階の2008ノーベル賞展示室の視察が行われました。

## 濱口総長が全学教養科目「名大の歴史をたどる」で講義

濱口総長は、6月21日(火)、IB電子情報館大講義室において、全学教養科目「名大の歴史をたどる」の講義を行いました。

この講義は、大学文書資料室が、本学の歴史を新生入生に分かりやすく紹介するため開講しているもので、その中の1回を総長がこれからの名古屋大学について語るという

「総長講義」として行っています。毎年、多くの受講希望者が集まり、200名に制限せざるを得ないほどの人気講義で、本学教職員や報道関係者にも公開されています。

今回は、「名古屋大学からNagoya Universityへ」という大きなテーマはこれまでと同じものの、日本の将来を厳しく冷静な目で見極めながら、「君たちは今をどう生きるのか」という問いとともに講義が進められました。

受講生からは、「名古屋大学の国際化がなぜ必要なのかを、多くのスライドを駆使して、世界的な視点から分かりやすく明らかにしたこの講義は、とても新鮮に感じられた」、また、「普通なら入学式や卒業式の際に遠目に見るだけの総長を、身近に感じられた」という感想が多く聞かれました。

同講義の様子は、DVDとして附属図書館等で閲覧できる予定です。



講義する総長

## 名古屋大学職場説明会を開催

東海・北陸地区国立大学法人等職員採用試験の受験者を対象とした名古屋大学職場説明会が、7月1日(金)、豊田講堂及びシンポジオンホールにおいて開催されました。

まず、豊田講堂において濱口総長のあいさつがあった後、大学の概要、事務職員の役割や業務内容、今後の採用面接の日程等について紹介がありました。

引き続き、シンポジオンホールでは、教務・学生、研究協力・社会連携、病院・医療支援、財務・経理、総務・広報、企画・評価、国際交流、学術情報サービス(図書)、施設

管理(電気、機械)、教室系技術(化学)の10のブースに分かれ、各所属の担当者による個別業務の内容紹介が25分ごとの入替制で5回行われました。

さらに、ホワイエでは、先輩の経験を伝えるコーナー、福利厚生、給与等の処遇説明コーナーが設けられ、参加者からの具体的な質問に職員が個別に対応しました。

当日は、約320名の参加があり、それぞれ真剣に説明を聞き、メモをとる姿が見受けられました。



個別業務の内容を説明するコーナーの様子



先輩の経験を伝えるコーナーの様子

## シュライヒャー OECD 事務総長教育政策特別顧問講演会を開催

アンドレア・シュライヒャー OECD 事務総長教育政策特別顧問講演会が、6月30日(木)、シンポジオンホールにおいて開催されました。

PISA(生徒の学習到達度: Programme for International Student Assessment)は、義務教育終了後の生徒の学力について国際比較を行う調査で、日本でも教育政策担当

者や学校関係者の中で大きな反響をもたらしています。シュライヒャー特別顧問は、このPISA調査のほか、教育統計データの国際比較プロジェクト事業 Education at a Glance(『図表で見る教育』)の責任者を務め、各国政府から講演会や教育改革会議等に招へいされている方です。

同講演会は、PISA調査が各国の教育政策にどのような影響を与え、どのような問題を提起しているのかを紹介し、国際社会における高等教育・中等教育政策の動向についての情報収集及び国際社会で活躍できる人材の育成を行うための示唆を得る機会とする目的で実施され、学内外から教育関係教職員や学生など約70名が参加しました。

早川教育発達科学研究科長の司会で進められた講演会では、濱口総長のあいさつの後、シュライヒャー特別顧問が、PISA調査で高い評価を受けた上海やフィンランド等のデータ及びその背景を紹介するとともに、日本のデータの推移等について講演しました。

質疑応答では活発な意見交換が行われ、有意義な講演会となりました。



会場の様子

## 全学同窓会台湾支部設立総会及び式典を開催

名古屋大学全学同窓会台湾支部の設立総会及び式典が、7月9日(土)、台北市内のシーザーパークホテルにおいて行われました。全学同窓会10番目の海外支部となる台湾支部については2007年から設立の動きがあり、ようやくこの日を迎えることとなりました。

当日は、本学から、濱口総長、鮎京法学研究科長、全学



簡支部長(左)に支部認定証を授与する総長(右)

同窓会代表幹事の伊藤義人工学研究科教授、同連携委員長の中野富夫法学研究科准教授らが出席し、元留学生を中心に50名を超える出席者がありました。

同窓会関係者のみで行われた総会では、支部名称、役員等が決定され、支部長には、簡玉聰高雄大学助理教授が選出されました。

式典は、富田哲淡江大学助理教授の司会のもと、まず、総長からあいさつがあり、記念すべき10番目の海外支部となった台湾支部に対する謝意と、本学の近況報告ならびに本学の国際化推進、特に留学生受け入れに対し支援いただきたいとの要望が述べられました。その後、伊藤教授から、豊田章一郎全学同窓会会長からの祝電が披露され、全学同窓会の設立経緯や理念の説明、また、大学が管理する電子名簿にインターネットでアクセスし、住所変更等を行ってほしい等の要望がありました。

続いて、総長から簡支部長に、支部認定証、支部旗及び記念品が贈られ、簡支部長から台湾支部設立までの経緯が報告されるとともに、名古屋大学基金への寄附などを通して名古屋大学を支援していきたい、とのあいさつがありました。式典後は懇親会が行われました。

## 全学同窓会韓国支部が本学へ寄附

本学全学同窓会韓国支部の王成宇同支部長が、6月28日(火)、本学を訪問し、濱口総長に寄附金が手渡されました。この寄附は、東日本大震災で被災した本学学生等への支援を目的としたものです。

韓国支部は、全学同窓会の最初の海外支部として、2005年5月に設立され、50名を超える会員が総会、親睦会等の



寄附金の受け渡しの様子(左から王支部長、総長)

活動を行っています。

当日は、本学の大学院法学研究科を修了した金光旭名城大学研究員のほか、全学同窓会代表幹事の伊藤義人工学研究科教授、同連携委員長の中野富夫法学研究科准教授らが同席しました。

総長は、韓国支部からの支援に対し深く感謝するとともに、寄附金は目的に沿い、大切に活用させていただきたいと述べました。また、今後も本学への連携協力と支援を依頼しました。

その後の歓談では、東日本大震災による計画節電への本学の対応や、韓国と日本との双方向交流推進プログラム「キャンパス・アジア」構想など、両国の高等教育を取り巻く状況について意見交換を行いました。

## 藤井理事が名古屋市長に緊急提言書を手渡す

藤井理事・減災連携研究センター長が、6月14日(火)、名古屋市防災会議において、河村たかし名古屋市長に対して、今後の地震防災に関する緊急提言を手渡しました。この緊急提言は、名古屋市からの依頼を受け「名古屋市地震災害対策の強化推進に係る緊急提言会議」が起草したもので、減災連携研究センターから、幹事として福和伸夫環境学研究科教授、委員として鷺谷 威環境学研究科教授、鈴木康弘環境学研究科教授、野田利弘工学研究科教授、水谷法美工学研究科教授が参画して具体的な文案作りを担

いました。

東日本大震災の発生を受けて地震防災に関する抜本的な見直しが必要となる状況において、今後の指針の作成を同センターが依頼された背景には、本学が長年にわたってこの地域において培ってきた信頼関係があります。深刻な自然災害から地域を守り、国難を回避するためにも、顔の見える関係を重視した産学官民の地域協働により減災を実現させることが重要であると言えます。

提言の主な概要は、下記の通りです。



緊急提言書

### I 東日本大震災の調査・検証

災害の教訓を得るため、都市の規模、土地条件、地震に伴う揺れの強さ等が名古屋市と類似した仙台市、および名古屋市が重点的に支援を行っている陸前高田市において、被害状況を調査・検証する。

### II 地震災害対策の徹底した現状総括

阪神淡路大震災を教訓にした従来の地震災害対策について現状総括し、南海トラフ地震に備える体制強化や機器更新など必要な対策を講じる。

### III 長期的な視点に立った災害に強いまちづくり計画の策定

今後100年を見据えたまちの在り方を考え、災害を考慮した街づくりを検討する。

### IV 産官学民の連携による減災に向けた地域防災力の向上

「自助」・「共助」の力を活用した「新しい公共」が必要とされている中で、産官学民の連携の核となる組織づくりや人作りのための場を作り、減災に向けた地域防災力の向上を図る。

## 第71回防災アカデミーを開催

第71回防災アカデミーが、7月4日(月)、環境総合館レクチャーホールにおいて開催されました。今回は、地震予知連絡会会長の島崎邦彦東京大学名誉教授により、「東日本大震災の発生予測をめぐる諸問題」と題した講演が行われました。

講演で島崎名誉教授は、東日本大震災を引き起こした巨



講演する島崎名誉教授

大地震と巨大津波について、最新の調査検討結果に基づいて、詳細に分かりやすく説明しました。この中で、今回の津波は、かつて仙台平野の広い範囲が浸水した869年の「貞観津波」と、1896年三陸のリアス式海岸で特に大きな被害を出した「明治三陸津波」の両方の性質を持っていたことが大きな被害につながったことなどを解説しました。

さらに科学的な分析に留まらず、地震・津波に関するこれまでの研究成果が、どのように防災施策に反映されてきたか、あるいは、されてこなかったのかという社会的な問題が提起されました。

東海地方に住む私たちにとって、近い将来予測される地震・津波災害にいかに関心すべきかを考える上で大変示唆に富んだ内容で、会場には過去最多の199名が駆けつけ満席となり、会場外に設置したスクリーンに、講演の様子が中継されました。

# 植物と病原菌の攻防

## —植物免疫シグナルネットワークの解明をめざして—

吉岡 博文 大学院生命農学研究科准教授

植物は、病原菌の攻撃に対して主に2つの認識機構を通じて病原菌を排除する植物独自の免疫機構を備えています。1つは比較的弱い抵抗性であり、鞭毛タンパク質フラジェリン、キチン、EF-Tu やリボ多糖など、病原菌の極ありふれた構造である病原体由来分子パターン (pathogen-associated molecular patterns; PAMPs) に対応する受容体が誘導する基礎抵抗性です (図1左)。病原菌は自身の感染を成立させるために、エフェクター分子を植物細胞内に挿入し、基礎抵抗性を攪乱します (図1中央)。これに対して、植物は病原菌の病原性因子であるエフェクタータンパク質を Rタンパク質によって認識し、動的防御反応として過敏感反応 (hypersensitive response; HR) を伴う強固な抵抗性を示します (図1右)。さらに病原菌は、エフェクターの構造を変異させ

て植物の抵抗性を回避しようとしています。このように、植物と病原菌は、短いスパンでお互いを進化させてきました。いずれの抵抗反応も、MAPキナーゼカスケードの活性化により抵抗性が発揮されると考えられています。

MAPキナーゼカスケードは、真核生物に高度に保存されたシグナル伝達経路で、MAPKKK (MAPキナーゼ・キナーゼ・キナーゼ)、MAPKK (MAPキナーゼ・キナーゼ)、MAPキナーゼという3つのタンパク質リン酸化酵素で構成されています。MAPキナーゼである WIPK、NTF4およびSIPKは、MAPKKであるMEK2によりリン酸化され活性化します。MEK2の恒常的の活性型変異体であるMEK2<sup>DD</sup>を一過的に発現させると、HRを伴う抵抗性が誘導されます。

私たちの研究室では、MAPキナーゼカスケー

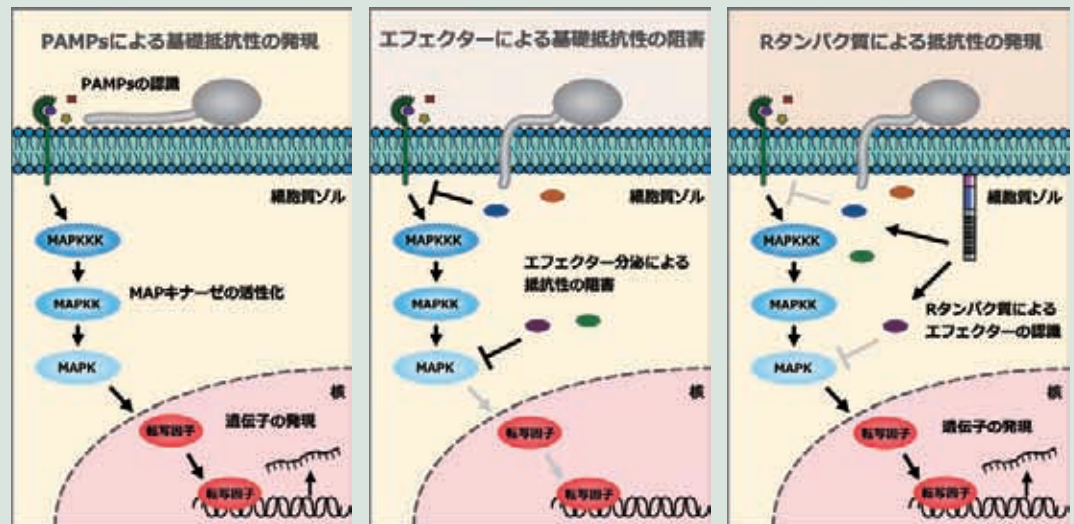


図1 植物免疫反応の概念図



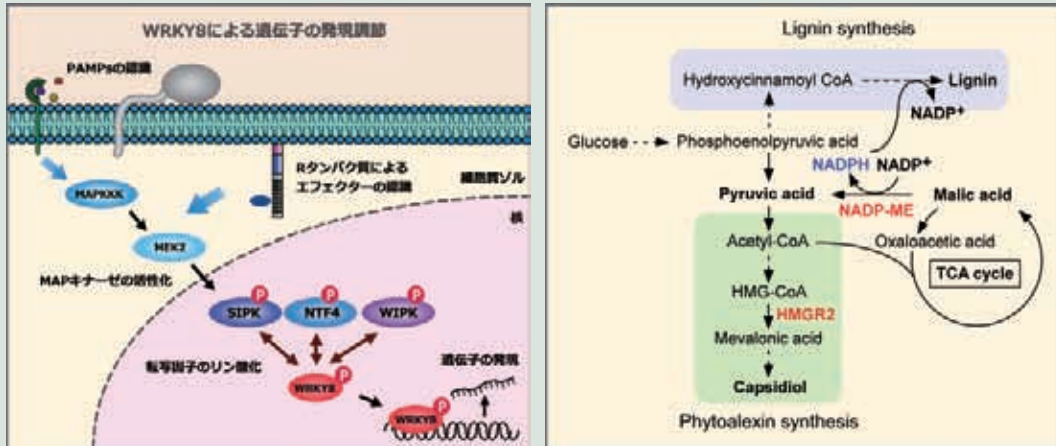


図2 WRKY8による遺伝子の発現調節機構と代謝変動の概念図

ドによる免疫誘導機構を明らかにする目的で、SIPKの基質タンパク質を明らかにしてきました。これまでに、ジャガイモのSIPKによりリン酸化されるタンパク質として、9個の基質を同定しました。今回これらの中で、研究員の石濱伸明君を中心にWRKY型転写因子に焦点を絞り解析を進め、WRKY8がSIPK、NTF4およびWIPKにより細胞核内でリン酸化され、DNAと結合することを明らかにしました(図2左)。さらに、リン酸化されたWRKY8は、植物免疫の実行因子であるファイトアレキシン合成の鍵酵素である3-hydroxy-3-methylglutaryl CoA reductase 2 (HMGR2) 遺伝子や、物理的な障壁となるリグニンの合成に関与すると思われるNADP-ME遺伝子を正に制御することを突き止めました(図2右)。すなわち、病原菌を感知した植物は、SIPK、WIPK、NTF4という3つのMAPキナーゼを活性化し、WRKY8をリン酸化すること

によって免疫応答を亢進することを発見しました。この研究成果は、米国植物科学専門誌「The Plant Cell」に掲載され、中日新聞、朝日新聞、日刊工業新聞に紹介されました。

本発見は、植物が本来備えている免疫力を利用することで、バイオマス植物の開発や耐病性の付与による作物生産の安定化に大きく貢献できるものと考えられます。病原菌が侵入した細胞でWRKY型転写因子が強く働くように遺伝子を導入することで、世界中の様々な作物の生産に莫大な損害をもたらす病害の克服が可能になる「病気に強い植物」の開発に貢献できると期待しています。

略歴：1989年三重大学大学院修士課程修了、1991年岡山大学大学院博士課程中退後、名古屋大学大学院生命農学研究科助手を経て、2005年より名古屋大学大学院生命農学研究科生物相関防御学研究分野准教授、現在にいたる。農博(名古屋大学)。1994~1996年米国ミネソタ大学博士研究員、2001年英国センズベリー研究所客員研究員。

抱負：病害耐性作物の創出につながる基盤研究をめざす。  
趣味：バンド演奏

よしおか ひろふみ



# 第65回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会

第65回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会（名阪戦）が、主に5、6月の土・日曜日に、本学を当番校として開催されました。今年度は男子31種目、女子14種目を実施種目とし、本学の運動施設等を会場として、熱戦が繰り広げられました。

今大会の結果は、9月に実施されるソフトボール競技を残して、男子が本学10勝・大阪大学16勝で大阪大学の勝利、女子が本学7勝・大阪大学5勝・1分けで本学の勝利、総合成績では本学17勝・大阪大学21勝・1分けで大阪大学の勝利となりました。

今大会の結果で本学の大会通算成績は、男子が20勝41敗4分け、女子が19勝34敗7分けとなりました（総合成績の制度が導入された第20回から今回までの総合通算成績は、本学の17勝26敗3分けです）。

なお、来年度の名阪戦は、大阪大学が当番校となり開催される予定です。

## 第65回名古屋大学・大阪大学対抗競技大会対戦結果表

種目	対戦結果		種目	対戦結果		
	名大	阪大		名大	阪大	
アーチェリー	×	○	弓道	○	×	
アイスホッケー	×	○	剣道	引き分け		
アメリカンフットボール	×	○	硬式テニス	×	○	
空手道	×	○	漕艇	○	×	
弓道	○	×	ソフトテニス	×	○	
剣道	×	○	体操	○	×	
航空	地震のため中止		卓球	○	×	
硬式テニス	雨天のため中止		バスケットボール	×	○	
硬式野球	雨天のため中止		バドミントン	○	×	
ゴルフ	○	×	バレーボール	○	×	
サッカー	○	×	フィギュアスケート	×	○	
自動車競技	○	×	ラクロス	○	×	
柔道	○	×	陸上競技	×	○	
準硬式野球	雨天のため中止		女子成績	7勝	5勝	
男子	少林寺拳法	×	○	総合成績	17勝	21勝
水泳	×	○				
女子	スキー	×	○			
漕艇	○	×				
ソフトテニス	×	○				
ソフトボール	9/8、9開催					
体操	×	○				
卓球	×	○				
バスケットボール	○	×				
バドミントン	×	○				
バレーボール	○	×				
ハンドボール	×	○				
フィギュアスケート	×	○				
ライフル射撃	○	×				
ラグビー	×	○				
ラクロス	○	×				
陸上競技	×	○				
男子成績	10勝	16勝				



アメリカンフットボール（名阪戦）



柔道（名阪戦）



漕艇（名阪戦）



女子バスケットボール（東国体）



男子硬式テニス（東国体）



馬術（東国体）

# 第60回東海地区国立大学体育大会

## —男子3位、女子5位—

第60回東海地区国立大学体育大会（東国体）が、主に6、7月の土・日曜日に開催されました。東海地区8国立大学が競技の開催を分担し、今年度は男子20種目、女子19種目が東海地区の各所で実施されました（準硬式野球は雨天のため中止）。

出場した選手達は東海地区の国立大学ナンバーワンの座をかけて全力でプレーし、梅雨空を吹き飛ばすような熱戦で大会は大いに盛り上がりました。

7月18日(月)をもって全競技を終了し、男子は昨年に引き続き静岡大学が、女子も今年は静岡大学が優勝し、静岡大学の男女アベック優勝となりました。本学は昨年男子準優勝・女子優勝であり、今年は男女アベック優勝を目指していましたが、結果は男子3位、女子5位と残念な成績に終わりました。

来年度は本学が東海地区の強豪の座に再び咲くことができるか、選手の一層の精進と活躍が期待されます。

### 第60回東海地区国立大学体育大会総合得点表

#### ■男子

競技種目	大学名		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	1	10.0	5	4.0	3	6.0	4	5.0	6	3.0	7	2.0	2	8.0	8	1.0			
2 水泳	6	3.0	3	6.0	1	10.0	2	8.0	7	2.0	8	1.0	4	5.0	5	4.0			
3 硬式野球	3	4.5	3	4.5	2	6.0	1	8.0	5	2.0	5	2.0	5	2.0					
4 準硬式野球																			雨天中止
5 硬式テニス	5	2.5	5	2.5	5	2.5	2	8.0	3	6.0	4	5.0	1	10.0	5	2.5			
6 ソフトテニス	1	10.0	3	6.0			2	8.0	5	4.0	7	2.0	4	5.0	6	3.0			
7 バasketボール	7	1.0	4	4.0	6	2.0	1	8.0	5	3.0	2	6.0	3	5.0					
8 バレーボール			6	2.0	5	3.0	1	8.0	7	1.0	3	5.0	2	6.0	4	4.0			
9 卓球	7	1.0	4	4.0	2	6.0	3	5.0	5	3.0	6	2.0	1	8.0					
10 バドミントン	3	6.0	2	8.0	6	3.0	4	5.0	5	4.0	7	2.0	1	10.0	8	1.0			
11 サッカー	1	10.0	8	1.0	7	2.0	3	6.0	4	5.0	6	3.0	5	4.0	2	8.0			
12 ハンドボール	3	5.0	6	2.0	1	8.0	2	6.0	4	4.0			5	3.0					
13 柔道	4	4.0	5	2.0	1	8.0	5	2.0	5	2.0	3	5.0	2	6.0					
14 剣道	5	2.0	3	5.0	2	6.0	1	8.0	5	2.0	4	4.0	5	2.0					
15 空手道	2	8.0	6	3.0	4	5.0	5	4.0	7	2.0	8	1.0	1	10.0	3	6.0			
16 弓道	6	3.0	1	10.0	4	5.0	8	1.0	5	4.0	7	2.0	2	8.0	3	6.0			
17 体操					—	—	—	—					—	—					オープン競技
18 馬術	3	4.0	6	1.0	1	6.0	5	2.0	4	3.0			2	5.0					
19 アーチェリー	4	2.0	2	4.0	1	5.0	3	3.0					5	1.0					
20 少林寺拳法	1	4.0	3	2.0			2	3.0					4	1.0					
合計得点		80.0		71.0		83.5		98.0		50.0		42.0		99.0		35.5			
男子順位		4		5		3		2		6		7		1		8			

#### ■女子

競技種目	大学名		愛教大		三重大		名古屋大		岐阜大		名工大		豊技大		静岡大		浜医大		備考
	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	順位	得点	
1 陸上競技	1	6.0	4	3.0	5	2.0	2	5.0					3	4.0	6	1.0			
2 水泳	4	3.0	1	6.0	2	5.0	3	4.0					5	2.0	6	1.0			
5 硬式テニス	4	3.0	5	1.5	3	4.0	5	1.5					1	6.0	2	5.0			
6 ソフトテニス	4	3.0	1	6.0			2	5.0					3	4.0					
7 バasketボール	1	5.0	3	3.0	4	2.0	2	4.0											
8 バレーボール	1	6.0			4	3.0	2	5.0					3	4.0	5	2.0			
9 卓球	6	1.0	4	3.0	3	4.0	1	6.0	5	2.0			2	5.0					
10 バドミントン	5	3.0	2	6.0	4	4.0	3	5.0	6	2.0			1	8.0	7	1.0			
12 ハンドボール	—	—	—	—	—	—	—	—											オープン競技
13 柔道	—	—			—	—	—	—											オープン競技
14 剣道	1	6.0	3	4.0	5	2.0	4	3.0					2	5.0					
15 空手道	4	3.0			1	6.0	2	5.0					3	4.0	5	2.0			
16 弓道	3	6.0	2	8.0	6	3.0	4	5.0	7	2.0			1	10.0	5	4.0			
17 体操	—	—			—	—	—	—					—	—					オープン競技(個人戦のみ)
19 アーチェリー			—	—	—	—	—	—											オープン競技
合計得点		45.0		40.5		35.0		48.5		6.0		0.0		52.0		16.0			
女子順位		3		4		5		2		7		8		1		6			

# グリーンモビリティ連携研究センター設立・ グリーンビークル材料研究施設開設記念式典・講演会を挙

●グリーンモビリティ連携研究センター

グリーンモビリティ連携研究センター設立・グリーンビークル材料研究施設開設記念式典・講演会が、7月8日(金)、豊田講堂において、挙行されました。

同センターは環境への負荷が少なく、安全かつ安心な交通手段及びシステムを意味する「グリーンモビリティ」に関するイノベーションの実現に向けて、産学・国際連携のもと、革新的技術を創出するための研究開発の促進及び当該分野を先導する研究者等の人材育成を図ることを目的として、今年1月1日に設置されました。

式典では、まず、同センター長である宮田理事が式辞を、濱口総長があいさつを述べたあと、来賓の澤川和宏文部科学省研究振興局学術機関課長、加藤洋一経済産業省中部経済産業局長があいさつし、その後、石川孝司工学研究科教授から同センターの概要説明、高井エコトピア科学研究所長からグリーンビークル材料研究施設の概要説明がありました。

式典終了後、記念講演会が行われ、豊田章一郎トヨタ自動車株式会社名誉会長が「トヨタ自動車の歴史と展望」と題して講演し、「地球温暖化や化石燃料の枯渇を制約と考えるのではなく、技術革新の引き金とする取り組み及び意気込みが必要」と述べ、その上で、次世代自動車開発の重要性を指摘しました。続いて、自動車技術会副会長である塩路昌宏京都大学エネルギー科学研究科教授が「自動車・エンジン技術の進化と未来への展望」と題して講演を行いました。



会場の様子



講演する豊田名誉会長



施設見学の様子

講演会終了後は、岡田 武経済産業省中部経済産業局地域経済部長による、次世代自動車地域産学官フォーラムの活動紹介が行われました。

豊田講堂ホワイエでは、約80枚のパネルにより、グリーンモビリティ連携研究センター等の技術紹介が行われ、同時にグリーンビークル材料研究施設の見学が行われました。

同施設は、東山キャンパスの東端、共同教育研究施設の建物群の中に建設された、地上4階地下1階の建物で、新しい自動車の研究・開発を目的として、今年3月に完成したものです。来賓や出席した企業等の関係者などが、豊田講堂からマイクロバスで移動し建物内を見学しました。

夕方からは、意見交換会が行われ、鈴置工学研究科長からあいさつがあった後、高井エコトピア科学研究所長の乾杯の発声があり、グリーンモビリティ連携研究センター教員をはじめ、企業等の関係者が意見を交換し、最後に高田広章情報科学研究科教授が謝辞を述べました。

企業、各種団体など、学内外から約500名が出席し大盛況のうちに終了しました。

## 公開レクチャーを開催

●大学院教育発達科学研究科

大学院教育発達科学研究科は、6月25日(土)、同研究科大講義室において、発達心理精神科学教育研究センターと東海心理学会との共催で、公開レクチャーを開催しました。

今回は、竹形理佳ヘルシンキ大学行動科学部特任教員による「フィンランドの子育て環境と幼児教育－日本人心理学者による母親体験から－」と題した講演を行い、本学学



講演する竹形特任教員

生や学外の心理・教育関係者など約40名の参加がありました。

前半は、竹形特任教員自身のフィンランドでの子育ての体験を交え、フィンランドにおける育児環境の実状について話をしました。特に、父親が育児参加に積極的であることや、それを保障するシステムが充実していることを解説しました。

後半は、フィンランドにおける幼児教育について説明し、就学前の教育システムが充実していることや、発達上何らかの問題を抱える子どもに対するきめ細かなケアが乳幼児期から行き届いていることを紹介しました。

幼児教育の段階から人間としての自尊心を育てることを重視しているという話からは、フィンランドの人を育てる確かな視点を理解することができ、それが高い学習到達度にも反映されていることがうかがわれました。

講演後の質疑応答では、参加者から多くの質問が寄せられ、有意義な講演となりました。

## 平成23年度工学部懇話会を開催

●工学部

工学部は、7月6日(水)、IB電子情報館大講義室において、平成23年度工学部懇話会を開催しました。同懇話会は、高等学校の進路指導担当教諭を対象に、理系への進学を考える高校生に学部選択の判断材料を提供することを目的として毎年この時期に開催しているもので、今回は「名大工学部：各学科・コースにおける教育研究」をテーマと



研究室見学の様子

し、愛知、岐阜、三重の東海3県下を中心に50の高等学校から61名の教諭が参加しました。

開催に先立ち、鈴置工学部長からあいさつと趣旨説明があった後、工学部の各学科長から「各学科の教育研究内容」、博士課程前期課程2年の神田貴幸さんから「大学生生活を振り返って」、博士課程前期課程1年の堀部太嗣さんから「新材料の創製のために」と題した講演が行われました。

講演に続いて、質疑応答及び自由討論が行われ、工学部の研究内容、入試や就職状況等について、高校教諭と工学部教員との忌憚のない意見交換が行われました。

その後、休憩を挟み、参加した高校教諭は、15の班に分かれて各研究室の見学を行いました。見学先の研究室では、教員や大学院生が、現在進めている研究内容をわかりやすく紹介しました。高校教諭に大学院生との対話を通じて学生が成長する様子に直接接してもらうことで、工学部における教育・研究活動の魅力を伝えるよい機会となりました。

## 名古屋入国管理局長講演会を開催

●大学院国際開発研究科

大学院国際開発研究科は、6月23日(木)、同研究科棟において、名古屋入国管理局長講演会を行いました。

「出入国管理行政と外国人留学生」と題した講演で、沖 貴文名古屋入国管理局長は、近年、「留学生30万人計画」のもとで、全国的にも本学においても外国人留学生数が着実に増加する中、出入国管理行政の視点から見た留学



講演する沖局長

生について話しました。

まず、出入国管理及び難民認定法と出入国管理行政全般について、入国管理局の業務についての解説を行い、その中での留学生の位置付けについて述べました。とりわけ、「留学生30万人計画」の策定時においては、自身が入国管理局課長として直接、策定過程に関わっていたエピソードを紹介しました。

その上で、「留学生30万人計画」の実現に向けては、数ありきではなく、快適な学生生活が送れるようにするための、大学における留学生の受け入れ態勢の整備が重要な課題であり、優秀な留学生を受け入れるための選考方法の構築が重要、と述べました。

また、本学学生に対し、入国管理局への就職を選択肢の一つとしてほしいと述べました。

参加者からは、来年7月に導入予定の「外国人登録証明書」にかわる「在留カード」について、また、在留資格の「留学」と「就学」の統合に関して質問がありました。

## 第3回アジア開発銀行・日本奨学金制度奨学生研究フォーラムを開催

●大学院国際開発研究科

大学院国際開発研究科は、6月29日(水)、シンポジオンホールにおいて、アジア開発銀行(ADB)との共催で第3回アジア開発銀行・日本奨学金制度奨学生研究フォーラムを開催しました。

同奨学金制度は1988年に創設され、現在、ADBから指定を受けた27の高等教育機関が、奨学金を提供していま



記念撮影

す。今回は、このうち本学を含む13の国内指定教育機関に留学中の奨学生が一堂に会し、「アジアの若手研究者による開発課題の取り組み」をテーマに、日頃の研究成果をまとめた研究発表及び意見交換を行いました。本学を含む12大学から教職員と46名の奨学生のほか、フィリピン マニラのADB本部、同駐日代表事務所、同研究所、財務省などの関係機関からの出席者を含め計75名が参加しました。

最初に、宮田理事の開会の辞に続き、坂口勝一 ADB 日本代表理事、財務省代表者よりあいさつがありました。引き続き9つの研究発表があり、活発な議論が行われました。その後、成田国際開発研究科長によるフォーラムの総括があり、ADB及び同研究所の代表者によりADBの優先開発課題について講演が行われました。最後に参加者全員による意見交換があり、研究発表者に対する表彰式の後、閉会式が行われ、盛況のうちに閉幕しました。

なお、過去2回のフォーラムは東京にあるADB駐日代表事務所で開催されており、指定教育機関において開催されたのは本学が初めてとなります。本学の同奨学金制度に対するこれまでの貢献が結実したものであり、今後のさらなる展開が期待されます。

## 次世代自動車地域産学官フォーラム・技術開発セミナーを開催

●大学院工学研究科、エコトピア科学研究所、グリーンモビリティ連携研究センター

大学院工学研究科附属バックキャストテクノロジー研究中心、エコトピア科学研究所及びグリーンモビリティ連携研究センターは、7月11日(月)、野依記念学术交流館カンファレンスホールにおいて、次世代自動車地域産学官フォーラム・技術開発セミナーを開催しました。これは、地球環境と人に優しい未来自動車「グリーンビークル



総合討論の様子

(GV)」の実現に向けた戦略マップ・ロードマップをテーマにしたもので、産業界を中心に253名が参加しました。

セミナーでは石川附属バックキャストテクノロジー研究中心長、グリーンモビリティ連携研究センター長の宮田理事及び来賓の岡田 武中部経済産業局地域経済部長からそれぞれあいさつがあった後、石川センター長が地球環境・人・科学技術が調和した、2030年のGV全体像について説明しました。

続いて、GVのキーデバイスである電池、超軽量化材料・技術、モータ、パワーエレクトロニクス、リサイクル、センサーの6領域の材料技術について、各領域幹事より2030年のゴール、研究課題、中部地域が保有するシーズ技術及びゴールに至るロードマップが紹介されました。その後、展示パネルを囲んで発表者と参加者が直接意見交換を行いました。

最後に、産業界の研究開発や行政の第一線で活躍している8名の専門家・識者と7名の発表者をパネリストに総合討論が行われました。産業界からは、ゴール設定の具体性、シーズ技術の豊富さ等に対して高い評価があった一方で、工業化におけるキーポイント等の指摘があり、大変有意義な議論となりました。

## 公開シンポジウム「エコトピア科学ー持続可能社会の実現に向けた戦略ー」を開催

●エコトピア科学研究所

エコトピア科学研究所は、7月12日(火)、ES総合館において、公開シンポジウム「エコトピア科学ー持続可能社会の実現に向けた戦略ー」を開催しました。同研究所は、平成18年度から5年間、文部科学省の特別経費によるプロジェクト「文理融合型・エコシステム科学研究の推進」を実施してきました。同シンポジウムは、平成22年度で同プ



パネルディスカッションの様子

ロジェクトが終了したことから、その研究成果をまとめ、広く情報発信することを目的に開催したもので、学内外から約80名の参加がありました。

同研究所では、「安全・安心で心豊かな質の高い持続可能な社会の創造」のための学際研究を設定し、「人間としての自覚に基づく科学技術の統合的解決」を基本とする新しい学際融合研究を「エコトピア科学研究」と呼び、「ソシオ・エコシステム科学ー生態系と調和する安全・安心な人間社会の創出」、「医療、医薬、健康の安全・安心」及び「高齢社会の介護・福祉、交通・自動車の安全・安心」の3テーマを基盤として、プロジェクト研究を進めてきました。

今回のシンポジウムでは、「エネルギー・環境・エコトピア」、「エコトピア科学」、「グリーンモビリティ・エコトピア」をテーマに9名の講師が、様々な専門分野からのエコトピア科学へのアプローチを中心に講演しました。

田原 譲エコトピア科学研究所教授を座長に、講演者による「エコトピア科学の今後の展望」と題したパネルディスカッションも行われ、東日本大震災をふまえ、エコトピア指標の構築の考え方などについて議論が交わされた有意義なシンポジウムとなりました。

## 「外交講座」特別講義を開催

●大学院国際言語文化研究科

大学院国際言語文化研究科は、6月24日(金)、ES総合館ESホールにおいて、外務省との共催で、「外交講座」特別講義を開催しました。

山中 誠特命全権大使(科学技術協力担当)を招いて行われた同講義には約140名が参加し、CBCラジオが山中大使のインタビューを放送するなど、関心の高さがうかがわ



会場の様子

れました。

中村登志哉国際言語文化研究科教授がモデレーターを務める中、山中大使は、昨年9月まで駐シンガポール大使として、日本の「広報外交」の先駆的事業となった「ジャパン・クリエイティブ・センター(JCC)」について触れ、アジアでは日本に対する関心が高く、実際の外交関係も緊密な一方で、最近の世論調査を見る限り、日本への期待感が低下するという懸念すべき状況にあるため、J-popやJ-Artを外交資源として有効活用するためにE-libraryを整備し、日本関連の各イベントを継続的に実施できるようにJCCを設置した、と設置の背景や開設に至る経緯を説明しました。

また、グローバル時代を迎え、外交は職業外交官同士による古典的な外交から、相手国市民への直接的説得も重視する広報外交をも包含する姿へと急速に変貌しつつあるため、大使は今後も広報外交の態勢強化に取り組む必要があるとの見解を示しました。

同研究科メディアコースは開設からの8年間で、多くの卒業生を報道・広報分野に送り込んできました。同講義が、研究面のみならず人材供給面においても外務省との間で有機的な協力を進める最初の一步となるよう関係を深化させていきたいと考えています。

## ICCAE 第3回オープンセミナーを開催

●農学国際教育協力研究センター

農学国際教育協力研究センター(ICCAE)は、6月29日(水)、農学部第7講義室において、2011年度第3回オープンセミナーを開催しました。

政府開発援助(ODA)の現場での実践を担っている開発コンサルタントを講師として招き、「開発コンサルティング業務とは～開発途上国からの最前線からの報告」と題



講演する蛭田主管

した今回のセミナーは、約50名の参加がありました。

まず、高梨 寿社団法人海外コンサルティング企業協会専務理事が「国際協力における開発コンサルタントの役割」と題し、ODAの事業におけるコンサルタント業務の内容やコンサルティング企業で求められている人材像とキャリアパスなどについて説明しました。

続いて、蛭田英明株式会社三祐コンサルタンツ海外事業本部技術第3部技術課主管がアフリカのザンビア国におけるODA事業の事例として、小規模農民のための灌漑システム開発計画調査の内容や開発コンサルタントの個人としての生活振りなどを紹介しました。

セミナー後の懇談会では、講師も含め開発コンサルタントの関係者7名と国際協力機構職員2名が、国際協力人材としてのキャリアパスなど学生からの個別相談に応じました。

参加者からは、「生の声を聞く機会がなかったのでとても面白かった」、「外に目を向けるよい機会になった」といった声が聞かれ、非常に有意義なセミナーとなりました。



## 第40回博物館コンサートを開催

●博物館

博物館では、6月18日(土)、同館展示室において、第40回博物館コンサート(NUMCo)を開催しました。

このコンサートは、本物の標本に囲まれた環境で本物の音楽に触れてもらおうという催しで、今回は、「マヌーシュスイングとミュゼット」と題したコンサートが開催されました。

「ロマノ」と呼ばれるヨーロッパ移動民族の音楽の概要

説明や、独特のギターや演奏の仕方などについて解説があった後、ギター3人とアコーディオン及びベースの5人により、「黒い瞳」や「ナポリのそよ風」など10曲が演奏されました。

会場に集まった170名は、手拍子などをして、とても楽しんでいる様子でした。



会場の様子



演奏者の様子

## 大学連携キャンパス講座を開催

●博物館

博物館は、5月14日(土)、21日(土)、28日(土)、6月11日(土)、18日(土)、同館講義室において、財団法人名古屋産業科学研究所、名古屋市生涯学習推進センターとの共催で、大学連携キャンパス講座「達人と話そうー自然を科学するー」を開催しました。

これは博物館の教員や本学名誉教授を始めとする、大学

で第一線の研究をしている教員が、一般向けに分かりやすく自然現象などを紹介する講座で、今回は昨年度に引き続き2回目となります。

5月14日(土)は、三矢保永名誉教授による「空、雲、光のサイエンス 雲の形と空の色」、21日(土)は、吉田博物館長による「地下環境を科学する 岩盤中の物質の移動」、28日(土)は、高部罔彦静岡大学名誉教授による「匂いと香り その不思議な世界」、6月11日(土)は、若松謙一岐阜大学名誉教授による「宇宙を科学する 宇宙観測の挑戦」、18日(土)は、小林一清名誉教授による「糖類を科学する 人類を支える多糖の世界」と題する講演がそれぞれ行われました。

模型や医療器具、香り物質を使う講演など、参加者が直接体験できるものもあり、「こんな楽しい講座は初めてだ」、「今日は本当に来て良かった」などの声が寄せられました。

毎回、活発な質疑応答があり、講演後も個人的に講演者と話しをする参加者が大勢いました。博物館ではこのような地域と大学の架け橋となる行事を今後も続けていく予定です。



講演する三矢名誉教授

## 名大を表敬訪問された方々 [平成23年4月16日～平成23年7月15日]

日付	国/地域	訪問者	目的
6月9日	中国	上海交通大学より呉副学長ほか7名	表敬あいさつ並びに大学キャンパスの企画、建設、耐震、施設の修繕、管理に関する情報収集、施設視察及び意見交換
6月28日	韓国	名古屋大学全学同窓会韓国支部より王支部長	韓国支部で集められた東日本大地震への義援金の寄附
6月28日	中国	中日友好病院より王副院長ほか1名	表敬あいさつ及び医学部附属病院の視察
7月6日	米国	在名古屋米国領事館よりジョナス・ステュワート首席領事、ハリー・サリバン新首席領事ほか2名	離着任のあいさつ
7月12日	米国	G&S Global Advisors Inc. より橋・フクシマ・咲江代表取締役社長	サマープログラム特別講義のため来学、表敬あいさつ

## 新たに締結した学術交流協定 [平成23年4月16日～平成23年7月15日]

### 大学間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名
3月27日	エジプト	カイロ大学
5月27日	韓国	浦項工科大学校
6月23日	イタリア	ポローニャ大学

### 部局間学術交流協定

締結日	地域/国名	大学/研究機関名	部局名
1月20日	アメリカ	ピッツバーグ大学教育学部	大学院国際開発研究科
3月10日	バングラデシュ	南アジア地域協力連合気象研究センター	地球水循環研究センター
5月17日	ドイツ	ルール大学ボーフム校数学部	大学院多元数理科学研究科
6月1日	マレーシア	マラ工科大学機械工学部	大学院情報科学研究科

構成員を対象とした研修 [平成23年4月16日～平成23年7月15日]

実施日	研修名	目的	参加人数
4月12日～19日 5月23日～25日	平成23年度新規採用職員研修	本学新規採用職員に対し、法人職員としての心構えを身につけるとともに、社会人として必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成することを目的とする。	27名
4月28日 6月16日	TOEIC 公開テスト準備セミナー	外部講師によるレッスン形式でのセミナーにより、TOEIC 公開テストの効果的な勉強法を理解することを目的とする。	21名 22名
5月11日	ハラスメント防止研修会及び 新任教員説明会	工学研究科の新任教員に対して同研究科の組織及び事務組織についての説明を行い、併せてハラスメント防止についての研修を行う。	14名 (ハラスメント 防止研修会) 16名 (新任教員 説明会)
5月17日～18日	平成23年度東海地区国立大学法人等 職員基礎研修	東海地区の国立大学法人等機関に新規採用後、勤務経験が半年以上2年未満の者に対し、法人職員の心構え等を改めて習得させるとともに、共通して必要な業務遂行上の基礎知識及び能力を養成することを目的とする。	119名
5月17日 6月20日	平成23年度第1回特許基礎セミナー 平成23年度第2回特許基礎セミナー	特許出願が未経験で、今後出願したい、特許出願に興味を持っている、あるいは出願経験はあるが再確認をしたい教職員、研究者、大学院生等を対象とする。	8名 4名
5月19日 6月24日	一般高圧ガス取扱講習会	教職員や大学院生等を対象に、高圧ガスを安全かつ適正に取り扱えるよう必要な知識を身につけることを目的とする。	313名 217名
5月26日 6月15日	廃棄物処理取扱者講習会	教職員や大学院生等を対象に、実験系廃棄物を適正に管理できるよう必要な知識を身につけることを目的とする。	148名 89名
6月6日 ～7月6日	Excel マクロ研修	普段、様々な業務に利用している Excel を、マクロを用いてより便利に効率的に使えるよう、その基礎を学び、実務に応用できるようになることを目的とする。	29名
6月7日～8日	平成23年度主任研修	本学職員の主任として職場における役割を自覚し、掛長への準備段階として身につけておくべき態度や意識、リーダーシップ発揮に必要な諸能力を養うことを目的とする。	25名
6月16日 ～9月16日	平成23年度英会話実践研修 (上級)	国際プログラム群実施対応を主な業務とする職員に対して、留学生及び外国人教員とスムーズにコミュニケーションが図れるよう、より実践的な英会話力を養成し、もって国際化対応の中核的人材を育成することを目的とする。	8名
6月28日	平成23年度パートタイム勤務職員 研修	パートタイム勤務職員(契約職員を含む)に対し、大学職員としての心構えを自覚させるとともに、業務遂行上必要な基礎知識、能力、態度等を養成することを目的とする。	69名
7月1日 ～12月28日	平成23年度英会話基礎研修 (中級・初級)	「事務部門の国際化アクション・プラン2010」を踏まえ、本学の国際交流・留学生担当職員及び業務上、英語能力を必要とする職員に対して、英語応用能力の増進を図り、もって国際化に対応した職員を養成するとともに、英語によるコミュニケーション能力を備えた職員を養成する事を目的とする。	32名
7月7日～8日	平成23年度中堅職員 (5年目) 研修	本学に勤務して5年目の職員に対し、積極的なコミュニケーションと問題発見の実践、解決方法についてのスキルを身につけさせるとともに、中堅職員として必要な、職務への取組み意欲、成長意識を養うことを目的とする。	17名

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
1 小林 誠本学特別教授は高エネルギー加速器研究機構などがニュートリノの変身兆候を検出したことについて「ノーベル賞級の成果につながる重要な一歩」と語る	6.16 (木)	日経 (朝刊)
2 第一回 NAGOYA からのニッポン復活 応援シンポジウム「震災時の企業リスクマネジメントとBCP (事業継続計画)」開催:30日 福和伸夫環境学研究科教授が講演	6.16 (木)	日経 (朝刊)
3 現代日本誤百科 (449):一週間「前倒しする」町田 健文学研究科教授	6.16 (木)	中日 (朝刊)
4 数理ウェブ開催:25日 大沢健夫多元数理学研究科教授が話す	6.16 (木)	中日 (朝刊)
5 博物館コンサート「マナーシェスウィングとミュゼット」開催:18日	6.16 (木)	中日 (朝刊)
6 本学の留学生1556人 (5月20日現在)のうち大学復帰または来日を見合わせているのは9人だけとなる	6.16 (木)	読売
7 本学は富山大学とともにモンゴル科学技術大学とレアアースに関する包括協定を締結する	6.16 (木)	日刊工業
8 森 郁恵理学研究科教授 線虫を使った実験で神経ネットワークの情報伝達に新たな発見をする	6.16 (木) 6.21 (火)	朝日 (朝刊) 日刊工業
9 名古屋大学英文学会サマーセミナー『『ノー・ノー・ボーイ』-太平洋戦争と日系アメリカ人』開催:7月8日	6.16 (木)	中日 (夕刊)
10 兵藤友彦氏講演会『『不登校』『ひきこもり』を身体から見る』開催:18日 国際言語文化研究科主催	6.17 (金)	中日 (朝刊)
11 紙つぶて:折り紙 森 郁恵理学研究科教授	6.17 (金)	中日 (夕刊)
12 濱口総長は「中京独立戦略本部」のメンバーとなる	6.18 (土)	中日 (朝刊) 毎日 (朝刊)
13 春の叙勲:旭日中経章:横井英夫本学名誉教授、梶川良一同名誉教授 瑞宝小経章:外山淳治同名誉教授 瑞宝単光章:中条育子元医学部附属病院看護部副看護部長	6.18 (土)	中日 (朝刊)
14 森川高行環境学研究科教授は高速道路の割引制度や無料化実験について「補修費用などを考えれば、道路をただで使わせる発想はおかしい。低炭素社会を目指す中、車利用を奨励する政策は環境面でのマイナスも大きい」と話す	6.18 (土)	中日 (朝刊)
15 名大カフェ Science, and Me 第12回「香りを食べる!? -牛肉おいしさの秘密」開催:7月6日	6.18 (土) 7.1 (金)	中日 (朝刊) 読売
16 「協働のあり方を考える市民フォーラム」開催:20日 中田 實本学名誉教授が講演	6.19 (土) 6.21 (月)	中日 (朝刊) 読売
17 現代日本誤百科 (450):「歯車がちくはぐ」町田 健文学研究科教授	6.20 (月)	中日 (朝刊)
18 東海大学サッカーリーグ2部:本学は2-0で愛知東邦大学に勝利する	6.20 (月)	中日 (朝刊)
19 愛知学生アイスホッケー競技会:本学は愛知医科大学に5-2、愛知学院大学に4-2、名古屋工業大学に3-2で勝利する	6.20 (月)	中日 (朝刊)
20 野依良治本学特別教授は日本のスーパーコンピュータが7年ぶりに「世界一」に返り咲いたことに関して「やっぱり研究はトップを目指さなければ」と語る	6.21 (火)	読売 他2社
21 現代日本誤百科 (451):「パリで黒山の人だかり」町田 健文学研究科教授	6.21 (火)	中日 (朝刊)
22 水谷法美工学研究科教授は名古屋港の高潮防波堤が2メートル沈下していたことについて、「防波堤は水位だけでなく津波を想定した強度の検討が必要」と話す	6.21 (火)	中日 (朝刊)
23 福和伸夫環境学研究科教授は名古屋市長が名古屋港の高潮防波堤の沈下について「国の責任で早急に対応をしてもらいたい」と述べたことに関して「自治体の防災戦略が見えないと、国も予算をつけづらいのでは」と話す	6.21 (火)	中日 (朝刊)
24 小川 光経済学研究科教授は「復興基本法」成立をめぐり考えを述べる	6.21 (火)	中日 (朝刊)
25 佐藤 純環境医学研究所准教授は梅雨時の膝の痛みについて「自律神経のバランスを整えることが、痛みの緩和につながる」と話す	6.21 (火)	中日 (朝刊)
26 「外交講座」開催:24日 国際言語文化研究科主催	6.21 (火)	中日 (朝刊)
27 遺伝子実験施設 第10回 Jr. サイエンス教室開催:7月16日	6.21 (火)	中日 (夕刊)
28 本学の特集がCBCの番組「お宝発信タワー DAI-NAMO」で放送される	6.22 (水)	中日 (朝刊)
29 錫村明生環境医学研究所教授ら アルツハイマー病や筋萎縮性側索硬化症の新しい治療法を発見	6.22 (水)	中日 (朝刊) 他4社
30 現代日本誤百科 (452):「実物を聞いた」ことがない 町田 健文学研究科教授	6.22 (水)	中日 (朝刊)
31 ひらめき☆ときめきサイエンス~ようこそ大学の研究室へ KAKENHI「博物館のバックヤードに行ってみよう!化石から学ぶ生命進化」開催:7月28日	6.22 (水)	中日 (朝刊)
32 中日文化センター特別講座:「もう一度学ぶ地震と津波のしくみ-東海・東南海・南海地震研究の最前線」山岡耕春環境学研究科教授	6.22 (水) 7.14 (木)	日刊工業 中日 (夕刊)
33 国立天文台は本学など全国7大学と共同で天体を長期観測する体勢を作ったと発表	6.22 (水) 6.23 (木) 6.28 (火)	中日 (夕刊) 日経 (夕刊) 日刊工業 毎日 (朝刊)
34 現代日本誤百科 (453):「八割が断水している」町田 健文学研究科教授	6.23 (木)	中日 (朝刊)
35 次世代自動車地域産学官フォーラム開催:7月11日	6.23 (木)	日経 (朝刊)
36 岡田 俊医学部附属病院講師は震災被災者の心のケアについて解説する	6.24 (金)	朝日 (朝刊)

本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
37 伊丹健一郎理学研究科教授らの研究グループ ナノグラフェンを精密につくるためのボトムアップアプローチを提案し、新反応・新触媒の開発に成功	6.24 (金) 7.13 (水)	中日 (朝刊) 日刊工業
38 紙つぶて：チームワーク 森 郁恵理学研究科教授	6.24 (金)	中日 (夕刊)
39 野依良治本学特別教授は理化学研究所北京事務所開所式で講演を行う	6.25 (土)	中日 (朝刊)
40 西澤邦秀本学名誉教授は家庭でできる放射能対策について紹介し、「心配な人は日常生活に取り入れてほしい」と話す	6.25 (土)	中日 (朝刊)
41 現代日本語百科 (454)：「メタボっている」町田 健文学研究科教授	6.27 (月)	中日 (朝刊)
42 第43回全日本大学駅伝東海選考会：本学は3位となり全日本出場を逃す	6.27 (月)	朝日 (朝刊)
43 東海大学サッカーリーグ：本学は2-1で愛知学泉大学に勝利する	6.27 (月)	中日 (朝刊)
44 フィギュアスケート・中部学生新人歓迎フリー：加藤 亮さん本学学生 (B男子1位)、渡辺ちなみさん本学学生 (C女子1位)、井上ありささん本学学生 (D女子1位)	6.27 (月)	中日 (朝刊)
45 本学は再生可能エネルギーの実証実験を町ぐるみで行う「豊田市低炭素社会システム実証推進協議会」に加入する	6.27 (月)	朝日 (夕刊)
46 森 郁恵理学研究科教授 エストロゲンで温度記憶を制御する線虫の温度感知システムを発見	6.29 (水)	日刊工業
47 現代日本語百科 (455)：「照明がたかれる」町田 健文学研究科教授	6.29 (水)	中日 (朝刊)
48 本学と十六銀行の協定が中部地方の産学連携の動きの一つとして紹介される	6.29 (水)	日経 (夕刊)
49 「2008年ノーベル賞展示室」が街のスポットとして紹介される	6.30 (木)	中日 (朝刊) ショッパー
50 現代日本語百科 (456)：「宿題する」町田 健文学研究科教授	6.30 (木)	中日 (朝刊)
51 後 房雄法学研究科教授は理想的な二大政党制について語る	6.30 (木)	中日 (朝刊)
52 押田芳治総合保健体育科学センター教授は熱中症について解説する	6.30 (木)	朝日 (朝刊)
53 本学の地震に関する研究について触れた読者投稿が掲載される	6.30 (木)	中日 (朝刊)
54 大島伸一元医学部附属病院長は松尾 稔元総長が20年も前から技術の利用と制御のあり方について警告していたことを紹介する	6.30 (木)	中日 (朝刊)
55 濱口総長はモンゴルとの包括協定締結の狙いを語る	7. 1 (金)	中日 (朝刊)
56 山岡耕春環境学研究科教授は松本市で起きた震度5強の地震について「東日本大震災が誘発した地震であることには間違いない」と話す	7. 1 (金)	中日 (朝刊)
57 佐藤彰一文学研究科特任教授が仏学士院碑文・美文アカデミー連携外国人会員に選ばれる	7. 1 (金)	毎日 (朝刊)
58 「名大の授業」IN 河合塾開催：17日	7. 2 (土)	中日 (朝刊)
59 杉浦伸一医学系研究科寄附講座准教授は自らが開発したスマートフォンを使い短時間で患者の搬送先を決めるシステムの応用ソフトについて「特殊な医療技術が必要な脳外科救急などにもシステムを応用し、全国に広めたい」と話す	7. 2 (土)	読売
60 「不斉とは？～基礎講座」開催：8月1～3日 野依良治本学特別教授のランチョンフォーラムが開かれる	7. 4 (月)	中日 (朝刊)
61 現代日本語百科 (457)：手作りされた「ケーキ」町田 健文学研究科教授	7. 4 (月)	中日 (朝刊)
62 「テクノサイエンスセミナーー物理の世界にあそぶー」開催：8月10日 工学部主催	7. 4 (月)	中日 (朝刊)
63 山岡耕春環境学研究科教授は「活断層は将来、確実に爆発する時限爆弾のようなもの」と指摘する	7. 4 (月)	中日 (朝刊)
64 現代日本語百科 (458)：デモが「封じ込まれる」町田 健文学研究科教授	7. 5 (火)	中日 (朝刊)
65 北浦 良理学研究科准教授、篠原久典同教授ら カーボンナノチューブでできた膜を使ってイオン液体の分子構造を直接観察することに成功	7. 5 (火)	日刊工業
66 国際言語文化研究科シンポジウム「原爆から原発へー記者たちは核をどう報道してきたか」&メディアプロフェッショナル・コース進学説明会開催：8日	7. 5 (火)	中日 (朝刊)
67 本学柔道部師範として学生を指導する二村雄次本学名誉教授は中学校で武道が必修科目になることについて、「このままでは安全対策が不十分」と警告する	7. 5 (火)	朝日 (朝刊)
68 堀田 饒本学名誉教授は版画家 故・棟方志功氏の思い出を語る	7. 5 (火)	朝日 (朝刊)
69 野依良治本学特別教授は理化学研究所の次世代スーパーコンピュータ「京」が「世界一」になった知らせを受け、「スパコンは国家基幹技術であり、その利活用は社会変革につながる。『京』の製作に打ち込んで頂いた方と喜びを分かち合いたい」と話す	7. 6 (水)	日刊工業
70 益川敏英本学特別教授は「子どものころ、本に夢中で小遣いは全部古本代に消えた」と語る	7. 6 (水)	朝日 (朝刊)
71 現代日本語百科 (459)：「ご拝聴ください」町田 健文学研究科教授	7. 6 (水)	中日 (朝刊)
72 本学と三重大学 金魚を使った新しい抗体の生産技術を開発	7. 6 (水)	日刊工業
73 エール：災害の教訓広めたい 福和伸夫環境学研究科教授	7. 6 (水)	日経 (夕刊)
74 松岡良樹理学研究科 COE 特任助教らの研究グループ 宇宙の真の明るさを解明	7. 7 (木)	中日 (朝刊) 他4社 日経 (夕刊)
75 現代日本語百科 (460)：「チャンスを広げる」町田 健文学研究科教授	7. 7 (木)	中日 (朝刊)
76 唐澤 穰環境学研究科教授は災害時にデマや流言が広がる原因について解説する	7. 7 (木)	朝日 (朝刊)

## 本学関係の新聞記事掲載一覧 [平成23年6月16日～7月15日]

記事	月日	新聞等名
77 本学などの地元7大学が外務省や国際機関の仕事を紹介するセミナーを企画する	7. 7 (木)	中日 (朝刊)
78 「高校生夏休み国際理解教育特別講座」開催：21、22日 加藤延夫元総長、森嘉昭夫本学名誉教授が講師を務める	7. 7 (木)	中日 (朝刊)
79 第93回全国高等学校野球選手権愛知大会 教育学部附属高等学校が出場	7. 7 (木) 7. 8 (金)	朝日 (朝刊) 中日 (朝刊)
80 安田孝美情報科学研究科教授はデジタル産業を瀬戸市の新たな地場産業にする企画委員会に参加する	7. 7 (木)	中日 (夕刊)
81 木下俊則理学研究科教授ら フロリゲンの新たな機能を世界で初めて発見	7. 8 (金)	中日 (朝刊) 他2社
82 福和伸夫環境学研究科教授は先人が残した防災の教訓の大切さについて語る	7. 8 (金)	朝日 (朝刊)
83 「伊勢湾津波防災シンポジウム」開催：7日 水谷法美工学研究科教授が講演	7. 8 (金)	中日 (朝刊)
84 川崎浩司工学研究科准教授は東海・東南海・南海の三連動地震が起きたときの津波被害の拡大に警鐘を鳴らす	7. 8 (金)	読売
85 「グリーンモビリティ連携研究センター」設立記念式典が開かれる：8日	7. 9 (土)	中日 (朝刊) 日経 (朝刊)
86 布目寛幸総合保健体育科学センター准教授は第7回世界フットボール科学会議学会長を務め、「何とか成功させられた」と話す	7. 9 (土)	中日 (夕刊)
87 名古屋大学全学同窓会台湾支部設立総会が台北市で開かれ、瀧口総長は「これを機に台湾からの留学生をもっと増やしたい」と挨拶する	7.10 (日)	中日 (朝刊)
88 現代日本誤百科 (461)：「募金を集める」町田 健文学研究科教授	7.12 (火)	中日 (朝刊)
89 パーキンソン病医療講演会開催：16日 平山正昭医学部保健学科学科准教授が講演	7.12 (火)	中日 (朝刊)
90 山澤弘実工学研究科教授は放射性セシウムが検出された牛肉が市場に出回ってしまった件について「今回の牛肉の放射性セシウムは健康に影響が出るような値ではない」と説明する	7.12 (火)	中日 (夕刊)
91 現代日本誤百科 (462)：「原発事故が収まる」町田 健文学研究科教授	7.13 (水)	中日 (朝刊)
92 植田桐加さん本学学生「ロレアル-ユネスコ女性科学者 日本奨励賞」を受賞	7.13 (水)	日刊工業 他3社
93 名古屋大学オープンキャンパス2011特別企画「2001年ノーベル化学賞・名古屋大学特別教授 野依良治博士 トークセッション/サイン会」開催：8月11日	7.14 (木)	中日 (朝刊)
94 現代日本誤百科 (463)：「努力してございます」町田 健文学研究科教授	7.14 (木)	中日 (朝刊)
95 医学部は研究者育成のため、新入生を対象に「メディカルサイエンスカフェ」を実施する	7.14 (木)	読売
96 情報科学研究科附属組込みシステム研究センターと宇宙航空研究開発機構が共同開発した、日本生まれの組み込みOS「トロン」に準拠した基本ソフトが来春打ち上げられる国産大型ロケット「H2B」に搭載される予定	7.15 (金)	日刊工業
97 篠原久典理学研究科教授はナノカーボンの実用化の遅れについて語る	7.15 (金)	日刊工業
98 高木不折本学名誉教授は長良川河口堰のゲート開門について「河床をしゅんせつして洪水を防ぐには、塩害を防ぐ河口堰が必要」と反対する	7.15 (金)	中日 (朝刊)
99 辻本哲郎工学研究科教授は長良川河口堰の有識者会議に専門的な見地から提言する「専門委員会」にオブザーバーとして参加する	7.15 (金)	中日 (朝刊)
100 第14回 spcafé「カタチが教えてくれること」開催：29日 桂木洋光環境学研究科准教授が話す	7.15 (金)	中日 (朝刊)

## 第7回名古屋大学ホームカミングデイ（創基140周年）

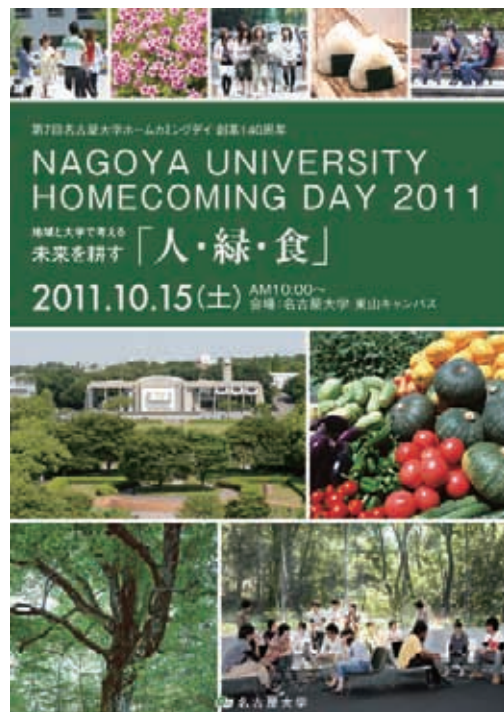
## 地域と大学で考える 未来を耕す「人・緑・食」

を10月15日（土）に開催

ホームカミングデイには、「家に帰る」あるいは「故郷に帰る」という意味が込められています。本学は明治4（1871）年に設置された仮病院・仮医学校を創基とし、今年で140年を迎えます。ホームカミングデイは、この長い歴史を支えてくださった卒業生・修了生や元教職員、在校生の保護者等の方々、また、本学の欠かせない「家族」の一員であります地域の皆様に、本学の教育・研究活動の一端に触れていただき、信頼し合い、協力し合うことにより、地域のさらなる発展に貢献したい、という願いから開催しており、今回で7回目を迎えます。

今年にはメインテーマを、地域と大学で考える 未来を耕す「人・緑・食」とし、本学の優れた教育・研究活動等を通じて、人が緑を育て、次世代に安全・安心な食を確保することで創成される、豊穡な未来について考えていきます。

ご家族、ご友人をお誘い合わせの上、是非本学にお越しください。



## イベント一覧

## 【豊田講堂】

「名古屋大学の集い」

（名古屋フィルハーモニー交響楽団コンサート等）

本のリユース市

農産物の販売

生協の名大グッズ等の販売

名古屋大学創基140周年記念展 等

## 【シンポジオン】

学術講演会 明日を拓く「人・緑・食」

生命農学研究科研究紹介ポスター展示 等

## 【野依記念学術交流館】

「名大東山キャンパスの雑木林の生物多様性を観察しよう！」

（東山キャンパス雑木林の散策及び展示）

あかりんご隊 科学実験を体験しよう☆

（名古屋大学理系女子コミュニティによる科学実験）

環境医学研究所市民公開講座「癌の新たな治療戦略」

## 【附属図書館】

秋季特別展

「そろばんと和算書－日本の計算文化にふれる－」

図書館スタンプラリー、図書館体験・見学ツアー

見て分かる図書館、オープンライブラリー

## 【博物館】

企画展「ミクロの美術館」

企画展ギャラリートーク

第1回名古屋大学歴史ウォーキング

触れて感じて学ぶ！サイエンスの世界

大学博物館ガイドツアー、野外観察園見学会

## 【陸上競技場】

名古屋グランパススクールコーチによる

「親子ふれあいサッカー教室」

## 【東山キャンパス全体】

名大ウォーキングツアー

HCD ミュージックプロムナード

## お問い合わせ先

総務部総務課 TEL：052-747-6558, 6559 FAX：052-789-2019 E-mail：home-coming@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

詳細は、ホームページ（<http://www.nagoya-u.ac.jp/home-coming-day/>）をご覧ください。

## 概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2011」を刊行

本学では、このたび概要パンフレット「名古屋大学プロフィール2011」を刊行しました。

本誌は、本体編と資料編（各年1回発行）の2冊で構成されています。本体編は、「名古屋大学の強みを発信する」をコンセプトに制作しており、今年度は「本学における若手研

究者育成の取り組み」をテーマとし、「継承と、前進。」と題し、インタビュー形式でわかりやすく本学を紹介しています。資料編は、数字等のデータにより、本学の取り組みを客観的に紹介しています。

ご入り用の方は、8月以降、広報プラザで入手できます。

また、高校生向けパンフレット「GUIDE TO NAGOYA UNIVERSITY 2012」（年1回発行）も刊行しました。

ご入り用の方は、入試課で入手できます。



## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等	内容	
<p><b>4月26日(火)～8月31日(水)</b>                      場 所：博物館2階展示室                      時 間：10:00～16:00                      休 館 日：日・月曜日、                      8月13日、16日臨時休館                      入 場 料：無料</p> <p>[問い合わせ先]                      博物館事務室 052-789-5767</p>	<p><b>第15回博物館特別展</b>  <b>「深海の生物と古生物</b>  <b>ー知多の化石から生きているウミユリまで」</b></p>	
<p><b>6月2日(木)～8月31日(水)</b>                      場 所：博物館野外観察園                      セミナーハウス2階                      時 間：10:00～16:00                      休 館 日：土・日曜日・祝日、                      8月15日～16日臨時休館                      入 場 料：無料</p> <p>[問い合わせ先]                      博物館事務室 052-789-5767</p>	<p><b>アフガニスタン写真展</b>                      テ ー マ：『「名古屋大学中央アジア栄養適応調査ー1968ー」の記録』</p>	



## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**7月21日(木)～8月31日(木)**

場 所：野依記念物質科学研究館 2階  
ケミストリーギャラリー

時 間：10:00～17:00

休 館 日：日曜日、8月13日、  
15日～16日臨時休館

入 場 料：無料

**マリー・キュリー ポスター展**

内 容：マリー・キュリーの功績を辿ったポスターを展示



[問い合わせ先]

物質科学国際研究センター

事務室 052-789-5907

**8月18日(木)～10月20日(木)**

(毎週火・木曜日)

場 所：シンポジオンホール

時 間：18:00～19:30

定 員：200名

参 加 費：9,200円 (全15回)

**平成23年度名古屋大学**

**公開講座**

テ ー マ：「夢見た今と夢見る未来」



[問い合わせ先]

研究協力部

社会連携課社会連携掛 052-747-6584

**8月20日(土)**

場 所：インキュベーション施設 1階  
プレゼンテーションルーム

時 間：10:00～15:00

参 加 費：無料

**ビジネス人材育成センター**

**平成23年度前期第8回B人セミナー**

テ ー マ：「バイオベンチャーの現状と求められる“人財”」、  
「プロフィールシート作成講座」

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

**8月20日(土)**

場 所：東山動植物園植物会館研修室  
(名古屋市中種区東山元町3-70)

時 間：13:00～16:00

定 員：20組

対 象：小学3年生から6年生と保護者

参 加 費：無料 (保護者は入園料500円)

**キッズ ボタニカル・ラボ**

内 容：園内を見学し、大学の研究者と共に植物に関する実験を行う



[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

サイエンスコミュニケーション推進室

052-747-6527

**8月23日(火)**

場 所：碧南市文化会館 5階研修室 2  
(碧南市源氏神明町4)

時 間：14:00～16:00

対 象：一般

参 加 費：無料

**環境学研究科しんきん環境事業**

**イノベーション寄附講座 第2シリーズ第3回講演会**

講演題目：「危機管理体制の構築－BCP策定と防災教育－」

講 演 者：黒崎ひろみ (環境学研究科特任助教)

講演題目：「環境と暮らしをつなぐデザイン」

講 演 者：石松丈佳氏 (名古屋工業大学准教授)

[問い合わせ先]

環境学研究科

しんきん環境事業イノベーション寄附講座

052-747-6550

開催月日・場所・問い合わせ先等

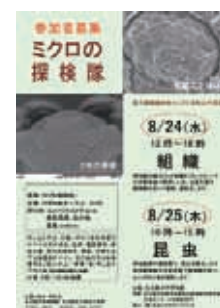
内容

## 8月24日(水)～8月25日(木)

場 所：博物館実験室、博物館野外観察園  
 時 間：13:00～16:00 (8/24)、  
 10:00～15:00 (8/25)  
 定 員：20名  
 対 象：小学5年生以上  
 参 加 費：50円

## ミクロの探検隊

テ ー マ：「電子顕微鏡を使ってさぐる形の不思議」  
 内 容：組織 (8/24)、昆虫 (8/25)



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## 8月27日(土)～8月28日(日)

場 所：矢作川 (岡崎市：8/27)、  
 博物館 (8/28)  
 時 間：9:30～15:30 (8/27)、  
 13:30～16:30 (8/28)  
 定 員：30名  
 対 象：小学3年生から中学3年生と  
 保護者 (中学生は個人参加も可)  
 参 加 費：1,000円

## 第2回地球教室

テ ー マ：「砂の中から宝石をさがそう！」



[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

## 8月28日(日)

場 所：理学研究科附属臨海実験所  
 (三重県鳥羽市菅島町429-63)  
 時 間：10:10～16:20  
 定 員：20名  
 対 象：小学5年生から高校生  
 参 加 費：無料

## ひらめき☆ときめきサイエンス

### ～ようこそ大学の研究室へ～ KAKENHI

テ ー マ：「海の生物を採集し受精発生のしくみを調べてみよう」

[問い合わせ先]

理学研究科附属臨海実験所  
 東山分室 052-789-2514

## 9月2日(金)

場 所：豊田講堂、シンポジオンホール他  
 時 間：10:00～17:00  
 対 象：一般  
 入 場 料：無料

## テクノフェア名大2011

テ ー マ：「名大もの作り最前線—創造から技術へ—」  
 講演題目：「悪魔の表面から天使の表面へ：表面技術」  
 講 演 者：齋藤永宏 (グリーンモビリティ連携研究センター教授)  
 講演題目：「世界を照らすLED」  
 講 演 者：天野 浩 (工学研究科教授)  
 内 容：将来性がある最先端の研究成果を公開し、本学が産業界や地域  
 社会と今以上に連携し、より発展するための機会になることを  
 目的に、基調講演、ブース展示、ミニ講演、研究室見学を実施

[問い合わせ先]

工学部・工学研究科  
 総務課社会連携室 052-789-3425



## 9月5日(月)

場 所：農学部管理棟1階大会議室  
 時 間：15:30～17:00  
 対 象：一般  
 参 加 費：無料

## 2011年度

### 第4回オープンセミナー

講演題目：「世界の食料問題と日本農業のポジション」  
 講 演 者：生源寺真一 (生命農学研究科教授)

[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター  
 センター長 山内 章 052-789-4022

## 9月13日(火)

場 所：環境総合館1階レクチャーホール  
 時 間：18:00～19:30  
 対 象：一般  
 参 加 費：無料

## 第72回防災アカデミー

講演題目：「東電原発事故による環境汚染が地域住民に及ぼしている影響  
 —衣・食・住・被曝・健康・法規制—」  
 講 演 者：西澤邦秀氏 (本学名誉教授)

[問い合わせ先]

災害対策室 052-788-6038

## イベントカレンダー

開催月日・場所・問い合わせ先等

内容

**9月13日(火)～11月19日(土)**

場 所：博物館 3階展示室

時 間：10:00～16:00

休 館 日：日・月曜日

入 場 料：無料

**博物館企画展**

「ミクロの美術館－顕微鏡で見た人体の世界－」

[問い合わせ先]

博物館事務室 052-789-5767

**10月5日(水)、10月26日(水)**

場 所：野依記念学術交流館 2階  
カンファレンスホール

時 間：16:30～18:00

参 加 費：無料

**グローバル COE プログラム**

「分子性機能物質科学の国際教育研究拠点形成」

**化学系セミナー**

講演題目：「化学ツールを活用したニューバイオテクノロジー」(10/5)

講 演 者：小宮山 真氏(東京大学教授)

講演題目：「 $\pi$ 電子系分子種の配列制御－分子周りのデザイン－」(10/26)

講 演 者：竹内正之氏(物質・材料研究機構グループリーダー)

[問い合わせ先]

GCOE 事務局

gcoe-office@chem.nagoya-u.ac.jp

**10月6日(木)～10月7日(金)**

場 所：野依記念学術交流館 1階会議室

時 間：13:30～17:30 (10/6)、  
10:00～11:50 (10/7)

対 象：一般

参 加 費：無料

**農学国際教育協力研究センター第12回オープンフォーラム**

テ ー マ：「途上国留学生教育の人造り・国造りへの貢献  
～アフガニスタンの復興に向けて～」

[問い合わせ先]

農学国際教育協力研究センター

特任准教授 伊藤圭介 052-788-6166

**10月8日(土)、10月22日(土)、11月19日(土)、  
12月3日(土)、12月17日(土)、1月14日(土)**

場 所：インキュベーション施設 1階  
プレゼンテーションルーム

時 間：10:00～

対 象：一般

参 加 費：無料

**ビジネス人材育成センター**

**平成23年度後期 B 人セミナー**

テ ー マ：「博士の就活スタート・リスタート」、  
「製造業における、知財戦略と知財部門の業務内容」、  
「博士・ポスドクのための就職ガイダンス」(10/8)  
「大学院生、ポスドクのためのビジネススキル入門」、  
「技術経営(MOT) コンサルティング概要」(10/22)  
「長期インターンシップ事前研修－知的財産の取扱いに関する留意点」、  
「バイオ業界の現状と求められる“人財”」(11/19)  
「食品業界および企業での研究開発について」、「弁理士の業界と業務」(12/3)  
「グローバルスタンダードな伝達技術とは」、  
「論理的でわかりやすい伝達技術(アウトライン化)」、  
「アウトライン化：事例演習と実践練習」、  
「社会人に求められるビジネスマナー」(12/17)  
「医薬品・医療機器産業の近未来」、「プレゼンテーションスキル研修」(1/14)

[問い合わせ先]

社会貢献人材育成本部

ビジネス人材育成センター 052-747-6490

名大トピックス No.219 平成23年8月17日発行

編集・発行/名古屋大学広報室

本誌に関するご意見、ご要望、記事の掲載などは広報室にお寄せください。

名古屋市千種区不老町(〒464-8601)

TEL 052-789-2016 FAX 052-788-6272 E-mail kouho@post.jimu.nagoya-u.ac.jp

名大トピックスのバックナンバーは、名古屋大学のホームページ

(<http://www.nagoya-u.ac.jp/extra/topics/>)でもご覧いただけます。

表紙

プール

(平成23年7月13日)



## 112 第8代総長 飯島宗一いいじまそういち — 名大をひきいた人びと⑬ —

第8代総長の飯島宗一は、1922(大正11)年、現在の長野県岡谷市に生まれました。42(昭和17)年に松本高等学校を卒業して名古屋帝国大学医学部へ入学、大学生活の多くを戦時体制下ですごしました。卒業後も名古屋大学医学部病理学教室で研究を続け、52年に講師、西ドイツ留学をへて58年に助教授となり、61年には広島大学医学部教授に転じます。

広島に赴任した飯島は、原爆被害者の実態を目の当たりにして衝撃をうけます。そして、日本で初めて原爆症の病理学的研究に本格的に取り組み、世界に名前を知られるようになります。さらに飯島は、核兵器による被害の悲惨さを率先してうたえ、核兵器廃絶運動や平和運動にも生涯をかけて関わり、大きな成果を上げました。これをテーマにした著書も多数あります。

広大では、1969(昭和44)年に46歳の若さで学長となり、2期8年にわたって大学紛争や学内改革、キャンパスの統

合移転などの問題に取り組みました。そして学長退任後もなく名大にもどり、医学部長をへて81年に総長に就任しました。母校を卒業した生え抜きの総長は、創立以来これが初めてのことです。

飯島総長時代の名大の動向として注目されるのは、外国人留学生の数が劇的に増えたことです。それまでは緩やかに増加する程度だったのが、1979(昭和54)年から増加率が上がりはじめ、飯島学長在任中の81年度から86年度を見ると、3倍近くの324人にまで増加しました。現在の名大では、約76の国・地域から1,500人を超える留学生が学んでいます。この国際色豊かな学風が形成されはじめたのが飯島総長の時代であったといえます。

1987(昭和62)年、紆余曲折をへながらも名古屋大学平和憲章が採択されるにあたっては、平和運動家としても名高い飯島総長の存在が大きかったことはまちがいないところです。



3	1	2
4		

- 1 飯島宗一第8代総長(1922-2004)。逝去後、その蔵書など約5,000点が遺族から名古屋大学附属図書館に寄贈された。
- 2 飯島総長時代の1982(昭和57年)に設置されたインターナショナルレジデンス。現在はインターナショナルレジデンス東山として、外国人研究者・留学生用宿舎になっている。2010(平成22)年にはインターナショナルレジデンス山手(国際喫煙館裏)が竣工、さらに本年秋には石田記念インターナショナルレジデンス妙見が竣工する予定である。
- 3 フライブルク大学(当時西ドイツ)のダムス教授(経済学)への名誉博士号授与式(1986年)。これが名大の名誉博士第1号となった。飯島総長は、名大講師・助教授時代の約3年間、フライブルク大学に留学している。
- 4 東山キャンパスの門標。刻まれた「名古屋大学」の文字は飯島総長の揮毫による。